



# あまびき元気ニュースNO.100

2022.8 天引区の活性化と未来を考える会発行

<http://amabiki-kasseika.moo.jp>

**あまびき元気ニュース100号達成 おめでとうございます。**

発行当初、南丹振興局局長に元気ニュースを手渡したところ、「長く続くことを願っています。」と言ってくれましたが、それが、10年にわたり、100号まで継続されたことを本当にうれしく思います。

思い起こせば、10年前、事業組合の山仕事の合間に、その当時の区長に、「今、何かしないと天引はどうなってしまうのか!？」と、不安な気持ちを伝えたところ、区長も同じ思いを感じており、『天引区の活性化と未来を考える会』の発足につながっていったと思います。

区民の数も、事業組合の事業参加者数も、年々減少し、個々の生活に追われていたところに、活性化のいろいろな取り組みを通じて、多くの区民や、地区出身応援団の方々、天引ファンのみなさまが集い、共に話し合い、笑いあい、一緒に汗を流したことで、より一層絆が深まったと思います。

また、50年間休んでいた炭焼き窯の復活についても、自分の父がしていたことを見て覚えていたことで、炭を焼くことができました。その方法を若い人や、新しく天引に住んでくれた人に伝えることができ、とてもうれしく思います。

むくむく市は、高齢者にとって楽しいおしゃべりの場であり、安否確認の場でもあります。野菜を出品している生産者の高齢化と後継者育成、また、荒れた農地を増やさないためにどうしていくかが、今後の課題だと感じています。85歳という高齢になりましたが、自分の経験したことを皆さんが必要とされるのであれば、これからも天引の活性化と未来のために協力していきたいと思っています。

活性化も、元気ニュースも、続けてやることで多くの皆さんから引き続き応援していただけるものと信じています。

初代活性化会長 奥村睦夫

## 「元気ニュース」は天引の宝

あまびき元気ニュースのNO.1が2012年12月に発行され、今回は記念すべき100号に達しました。大変意義が深く、重要な節目であると思います。大きな喜びと共に、発行を続けて来られた事務局の方に敬意と感謝の気持ちでいっぱいです。そしてまた、「元気ニュース」を常に愛読され、支えて来られた区民の皆様にも敬意を表します。

時代の変化と共に、社会や地域が大きく変わってきました。天引区に於いても、かつては農林業を中心に皆同じ環境で暮らしていました。しかし、今日では、区民の生活や活動は多様化し、一人ひとりの自由な発想や自主的な活動が大切になり、このことを最大限に尊重する事の必要性が強まっています。かつては仕事の場や組常会、講などが情報交換や交流の機会であり、連帯の場でありました。しかし、社会や地域の変化と共に、それがこの「あまびき元気ニュース」や「むくむく市」に変わってきています。天引区民の生活と活性化には今や欠かせない存在となっています。今では、「あまびき元気ニュース」を通して情報の交流と共通認識の形成がされていると言っても過言ではありません。更なる「あまびき元気ニュース」の継続発展を願っています。今後は、今までの通り天引の行事や様々な取り組み載せていただくと共に、天引の人達の色々な声を届けてほしいと思います。区民が意見を出し合い、共通認識を図る紙面となれば、「あまびき元気ニュース」も「天引区」も益々発展していくと存じます。「あまびき元気ニュース」100号発行を心から祝福します。

奥村将治(活性化の会発足時の区長)

## 『あまびき元気ニュース』100号、バンザイ!

編集長、本当にご苦労様でした。

10年間も一人で編集発行をすることは並大抵の事ではありません。頭が下がります。

高齢化もあり、夜の組常会が一部を除いてできていないなど、おらの中の情報が伝わりにくくなっているだけに、「元気ニュース」を読めば、おらのことがよく分かって好評でした。情報を一部の者だけが知っているのではなく、みんなで共有することは、天引の活性化を進めるうえで、とても大切なことでした。『元気ニュース』なくして、天引の活性化なし、です。150号、200号に向け、現編集長と共に、頑張っていただけの人、ぜひ、名乗りを上げてほしいと思います。

10年間も事務局長・原田久

元気ニュース、100号、長い年月ありがとうございます。そしてご苦労様です。

できれば、又、続けてほしいと思っています。毎回楽しみに読ませて頂いております。

『天引元気ニュース』ありがとう。

天引の事が細かくわかり、むくむく市、活性化につながっています。そして、私自身も毎回楽しみにして読ませて頂いております。

私も応援します!!

## 元気ニュース百号に思う

奥村敏信(大阪在住)

元気ニュース百号発刊おめでとうございます。

十年以上にわたる努力と汗の結晶だと思います。本当におめでとうございます。

私は六十三歳で会社退職後、天引の実家生活半分、現住居での生活半分の半々生活を十年ほど続けてまいりました。その実家生活において区の役員として活性化委員会のメンバーにつかせていただき、原田さん、清水さんと元気ニュースの協議をしたのを昨日のように思い出します。

編集部員を募集したのにメンバーが集まらず、とりあえず清水さんに取材から編集・印刷・発行までやり、編集部員が集まった時点で業務を分担するという出発したと記憶しております。編集部員は集まらず、百号を迎えるに至ったのは、彼女のたゆまぬ努力によって成し遂げられたと深く感謝しております。

さて、私事で恐縮ですが、ここ二年ほど体調を崩し入院・リハビリの生活となり、区の役員、活性化の事務局をやめさせていただき、区の諸行事に全く参加できておりません。何もお役に立てないのは申し訳ないのですが、逆に客観的に諸行事を見させていただいているつもりです(が、天引、活性化、おくおく市等関連の言葉や文字を見たり聞いたりするだけで心が騒ぎます)。みなさんの動き回っている姿や、物を売っている姿。楽しそうな語りや顔、すぐにでも飛んで行って参加したい思いでいっぱいになります。いや、それではいかん、と思い、過疎化に少しでも寄与できないかと思い、移住に興味を持っていただけるようにと、娘ともどもお付き合いのある人やグループの人に『天引』を知ってもらおうと、いただいている『元気ニュース』をはじめ、冊子・写真・パンフ等で宣伝しております。中には移住したい方もおられ、具体的に協議に至った方もおられました。

今後も天引区は人口減少が大きな問題だと思います。今皆さんが頑張っておられる活性化の大きな目的の一つが、居住してくださる人をコツコツ増やしていくことだと思います。これには、来てくださる人のみでなく、受け入れ側も、家、別棟、部屋等の今後の活用見直しを検討していただければと思います。、持ち主の予定がなければ提供していただき、居住数を増やしていく必要があります。近年田舎に移住したいという若い方は着実に増えてきております。我々も区外からそのような人の仲介はできますので、受け皿の準備をぜひとも進めていただきたいと思っております。次に、今は一部の応援団の方を除き『ふるさと応援団』が活躍できる場がなく、有名無実化しているように思います。離れて暮らしているので頻りに参加できないとは思いますが、現地での知り合いへの「天引」のPR等は十分できます。一度ふるさと応援団の方々に、どのようなことであればいいのかアンケートを実施され「このようなことであればできる」という内容を把握されて検討されればいいのではないのでしょうか。

以上、勝手なことばかりを書きましたが、いずれにつきましても『元気ニュース』の情報媒体としての重要性は増していくばかりです。今後も二百号、三百号と発行していったらいいです。現編集者の努力を助け、発行を続けていくためにも、若い編集委員の方にぜひとも参加していただきたいと切実に思っております。

## 元気ニュース100号記念に

奥村悟

まず元気ニュース100号発行おめでとうございます。

担当されている清水さん、本当にお疲れ様です。

高校卒業と同時に就職のため家を出て早や55年近く、育った家を後にするとき一抹の寂しさを覚えたのを思い出します。とは言え、田んぼの手伝い、盆、正月など、事あるごとに、帰っていましたが、折につけ頭の中を占めるのは、学校を卒業するまで天引で暮らしていた時の思い出、70歳を過ぎても大きなウエートを占めています。今も残る田舎の原風景ともいえる景色、川での釣り、魚つかみ、段々畑の田んぼや山でのドジョウ取り、カブト虫ゲンジ取り、幻想的なほたるの群舞、また地藏盆・盆踊り、まつり、亥の子等の行事、数え上げたらきりが無いくらいの思い出が大変懐かしく良い人生の財産になっています。今でもほとんど変わらない風景、その素晴らしい故郷“天引”、10年間活性化に取り組み少しづつ形になりつつあるのではないのでしょうか。この取り組みが元気ニュース100号の様にこつこつと積み上げて、素晴らしい環境を守りながら、これからも続いていくよう願っています。

この天引という土地には、計り知れないパワーがあると感じている。聞くとところによると昔から天引に人はお元気で長生きである。

来た当初に「ここに馴染むのには、10年かかるよ。」と教えていただいた。やっと10年が経ち、この土地に受け入れていただけてると思う。これから30年以上は、この天引で生かさせていただくだろう。

その頃にはどうなっているのか。

今以上に活気があり、自然に守られて、天引の人々が笑顔で楽しく暮らしている。そんな天引になってほしい。私が90歳頃になっても『棕の木』を見上げ、八幡神社「守ってくれてありがとう」と、手を合わせていたい。変わらぬ景色を眺めていたい。

そんなことを思いながら、日々楽しく奮闘している。これからもよろしくお願いします。 奥村育子

これからも、天引を  
語ってください

お疲れ様でした！  
これからもファイトです！

## 天引元気ニュース発行100号記念に寄せて

この度は、100号記念誌発行、大変おめでとうございます。  
これまでの紙面を作成された清水さんに敬意を表します。努力と苦勞と信念により、花開く100号発行となりました。天引の月間報道紙として、区内の事は居ながらにして分かるという大変貴重な存在であり、今後も更に充実した元気ニュースとなるよう頑張ってください。この記念誌発行に寄せて、戦後の天引の芸能、文化の一端を思い出しながら書いてみようと思います。

### ①青年会の村芝居と芸能文化

戦後の混乱した大変な時期に、国民の元気と希望を与えた歌手並木道子の歌った『リンゴの歌』は、大都会の焼けトタンの中から、町や村へと全国を縦断して、日本復興のソフト面での原動力の一つとなった。明るく、親しみやすい歌は、子どもからお年寄りまでが口ずさみ、生きる喜びと元気と共同の精神を奮い立たせたと言われた。この頃天引では、青年会が村芝居を自作自演で行い、昭和22年1月から年間を通じて行われた。27年1月頃まで続けられる。会場は分教場全面を借りて現代劇、時代劇や踊りを繰り広げ、その熱演に会場から大きな拍手も起こり大変盛り上がった。遂には昼食をはさんで区民有志の方も飛び入りして、芝居に花を添えた。踊りの主題歌は、勘太郎月夜歌で、歌手小畑実が歌ったレコードであった。大入り満員の会場で、夕方の4時まで行われた。その後青年会では、秋祭りに八幡神社の拝殿で寸劇が行われていた時期もあったが、時代の移り変わりで業者による芝居や、その他の催しになり、青年団の芝居は昭和31年3月でその姿は消える事となった。

### ②丹波音頭と踊りの復活

伝統文化の一つである丹波音頭と踊りが戦後に復活した。農作物の方策を願って、老若男女や子どもたちも踊りに多数参加した。

木材を加工して角材を作り、その角材を組んでヤグラを作り、四隅に竹を1本ずつ入れ、提灯を飾って音頭台を作る。その台の上で音頭取りが音頭を取って、まわりを踊り子が輪になって踊る。輪は次第に2重3重になり大盛況であった。「アラ ヨッホイセイ ヤットコショ」(良いこえを出せ、ようけ出せ)と、手拍子を取ってはやした。

踊りは毎年盆に、八幡神社の境内で2回行われ、分教場の広場で2回、八坂の広場で1回、るり溪口の広場で1回行われ、多くの人に参加した。

また、秋祭りには、9月14日の夜には、八幡神社の境内で行われ、多くの人に参加した。

昭和40年ごろまで続いた。音頭取りは貴重な存在で当時12名ほどの方がおられた。車の普及で危ないので、昭和35年以降は八幡神社のみで行われた。

### ③時代の流れの中で(昭和30年代以降)

昭和31年頃より、園部音頭や、炭坑節等のレコードの踊りが流行した。

また、長栄寺住職清水良淳さんが、毎年夏休みになると、東京の駒澤大学の学生を呼んで、新しい踊りやフォークダンスや、子ども用の踊りやゲームを教えもらい、レコードにより盛大な踊りとなる。

そのころには丹波音頭と踊りは踊る人が少なくなり、そして姿を消した。時代の流れである。

その後、幾年かが過ぎ、天引に若鮎会(高校生主体)の会ができ、新しい創作が作られ、大いに盛り上がった時期もあった。人口減少と、学生の生活の変化により、若鮎会も存続が難しくなっていた。

(文 初井貞夫)

## 《早や1年が過ぎて》

ツバメの鳴き声に「あっ!!、お帰り」と

昨年、今にも巣立ちそうな元気な姿に嬉しくて。しかし、一寸目を離れた時に、異常な鳴き声が！見ると、そこには大きな敵が！「やめて〜！」と恐さを忘れて棒でつつき、敵は逃げたが遅かった。落ちた巣の中には2羽だけが、かすかにびくびくの状態、何とかならないかと思ひ、巣を移動させる。親が気付いてくれるのを待つ。親は、少しずつ近づき、必死で餌を運ぶ姿に、見ている方がぎげけとなり、感動させられる。暗くなり、飛び立つことはできず、また寒くなり巣を布で包み家の中へ入れる。一晚私の横で一緒に眠る。朝、「生きている！」親から餌をもらうため外へ連れていくと、又必死で運んでくる親鳥。遠目で見守る私も必死。1羽が、親と共に鳴きながら空へ。残りの1羽は、まだ無理のようで、目を離すには、昨日の敵の不安を感じ、家の中にて、飛ぶ練習につきあう。

また外へ連れて出て暗くなりかけた頃、今日は無理かと諦めかけたところに、鳴き声と共に姿が見当たらなくなる。朝、4羽のツバメが、私を外へ誘うかのようににぎやかな声に出てみると、家の前で大きく仲よく輪を描いていた。

そのうちの1羽が私の前を何度もスーッと寄ってきながら大空へ消えていった。

「気を付けて〜、強く頑張れ〜！」と。 1年前の事。

(文 奥村佐登美)

## 元気ニュース100号おめでとうございます。

今日100号に至るまでいろんなご苦労が多々あったと思いますが、それを克服されてこの日を迎えられることに頭が下がる思いです。区内の情報をわかりやすく載せてもらい、時には区外の事も載せてもらい、いろんな情報が入り毎回楽しく拝読させてもらっています。毎回毎回大変な作業ですが、区民の情報源として今後もがんばっていただき、区内に発信してもらえればうれしいです。150号、200号と続いていくように今後も頑張ってください。応援しています。 天引区 区長 小島

あまびき元気ニュース継続100回記念号発行、おめでとうございます。お陰様で、天引の情報が手に取るように理解でき、大変喜んでます。このニュースで天引も元気になり、野菜市も約10年続き、定着してきました。屋台村も、市を盛り上げるために、皆さんお忙しい中、協力いただき、月2回の開催を楽しみにしながら、いつもアルコール漬けとなりながら、コロナに打ち勝っています。

今後とも更に永く活性化が進み、住みよい村になることを願う次第です。 活性化と未来を考える会 会長 小島



(2017年区民親睦カラオケ大会) (夏の終わりの松明)

2022年はコロナ感染第7波が来ています。むくむく市も、十分感染予防して開催しています。日頃からの注意喚起が大切です。みんなで気を付け乗り切りましょう！！

100号発行に感謝しています。  
天引の多くの情報を伝えてもらい  
ありがとう。  
人と人のきずなを大切にしたい  
と思います。

## 《お知らせ》

### 8月の予定

3日 ムクちゃん食堂開店

7日 野菜市  
アスリートウオーキング講習

10日 ムクちゃん食堂開店

14日 むくむく市

19日 活性化事務局会議

20日 第8回水辺の生き物調査  
寺ヨガ9:30～ 長栄寺

21日 野菜市

25日 活性化運営委員会

28日 むくむく市

松明上げ(15時から準備します。  
協力者募集中です。)

### 9月の予定

11日 むくむく市 八幡神社秋祭り

17日 寺ヨガ9:30～ 長栄寺

22日 資源回収の日

25日 むくむく市

花いっぱい会14:00～  
各種団体行事等

ありましたらお知らせください。

## 100号記念寄稿御礼・編集後記

あまびき元気ニュース発行100号を迎えることができました。これもたくさんの方々の応援とご支援があったからであると思います。天引のおばさんたちが、「毎回楽しみにしてるで！」「ちゃんと綴じてるしな」、と声をかけてくださったり、経験豊富で物知りのおじさんたちが、この鳥居にはこんなことが書いてあるとか、山の話とか、いろんなことを教えてくださり、私もたくさん元気と知恵をいただきました。

私はただ、文字にしましたが、いろんな方から、いろんなことを学ばせていただきました。

たくさんのご支援、本当にありがとうございました。

(内うちの事ですが、印刷用プリンターのインクをいつも何も言わずに補充してくれていた家族にも感謝。)

今回、天引の芸能文化について寄稿していただいたり、久しぶりに自分の感動を言葉にしてみた記念号発行をきっかけに文章を書いて下さった方もいらっしゃいました。

100号が無事発行に至ったのも、多くの愛読者と寄稿して下さった方があったおかげです。感謝しております。

初めのうちは毎月発行していたのですが、ここ3年、コロナ感染拡大の影響も受け、いろんな取り組みや会合も減少してきました。元気ニュースも記事が集まらず、2か月に1度となってしまっていました。

こんな時こそ、皆さんに元気を届けるのが、元気ニュースであるはずなのに、申し訳なく思います。

新しい編集者が入ってくださることを願いつつ、これからも皆さんに元気を届けられる様にと考えています。

今後とも変わらずに、ご愛読いただきますようお願いいたします。(投稿もお待ちしております)

(文 清水郁代)